



勉強のおもしろさや勉強する理由がわかってくる!

やる気の法則。

第7回：生物

取材・文／太田知子
イラスト／桔川 伸

「生物を学ぶ楽しさは、生き物としての自分自身を知る楽しさ、地球上に170万種類以上といわれるさまざまな生き物を知る楽しさにあると思います」と語る牧島先生。休日はぜひ動物園へ! 多様な生き物を間近で見る体験が好奇心を刺激してくれるはず。



法則1

自分の生き物としての
素性や仕組みを知ることが
楽しいと気づく

お腹がすく理由や人を好きになる理由も教科書を読めばわかる

生物の授業で学ぶことは、すべて自分の体の中で起こっていることです。「どうしてお腹がすくの?」「どうして人を好きになるの?」などの素朴な疑問に対する答えも、生物を学べば自ずと見つかるでしょう。

10代のうちは「自分は何者なのだろうか?」と一度は考えるもの。音楽などの芸術や、勉強、スポーツに取り組むことで自分らしさを発見することもあっていい。でも実は、「生物を学ぶこともそのように自己理解を深める一つの方法なんだ」と考えてみてください。

自分の体が約40兆個もの細胞でできていて、細胞の中にあるミトコンドリアやゴルジ体などが生命活動を行っていて、毎日古い細胞が死に、新しい細胞が生まれている…。そんな命の不思議を実感できるはずですよ。

限りある命だと思えばこそ
可能性に挑戦する意欲がわく

生物を学ぶと、「生まれたからにはいつか死ぬんだなあ」とか、「無理をすると病気になるよな」という超基本的な「生き物としての限界」についても腑に落ちます。だからこそ、おいしく食事が食べられることや、恋愛中のおきめきがかけがえのないものだと思えるし、限りある命を大切に、可能性に挑戦しようと思えるのでは? 生物を学ぶことが、そんな風に思い至るすばらしいチャンスだととらえてほしいですね。



法則2

地球上に170万種以上!
動物園や水族館で
その多様性を垣間見る

実物をじっくり観察して
「機能美」を体感しよう!

生物を学ぶうえで一番いいところは、学ぶ対象である生き物たちを身近に観察するチャンスがたくさんあることです。例えば学校の帰り道、いつもは下から見ている街路樹などを、陸橋にのぼって上から見てみましょう。すると、一枚でも多くの葉っぱが太陽の光を浴びて光合成できるように、枝が見事な放射状に伸びていることがわかります。

単に「かわいい」「きれい」で
終わらせず「なぜ?」と考えて

休日には近所の動物園、植物園、水族館、博物館などに足を運んでみてください。水族館でいるかやペンギン、魚を見てみると、みんなきれいな流線形をしています。海の中で長い間生活していたら、いつの間にか同じような形になったのでしょうか。生き物を間近で見ると、その形がいかに機能的で実利に即しているかわかり、ほれほれしますよ。

ぜひ「きれい」「かわいい」「癒される」などの感想で終わりにせず、「どうしてこんな形をしているんだろう?」「どんな環境で暮らしているんだろう?」と考えてみてください。また興味をもった生き物については、プレートに書かれた種族名や簡単な説明文にも目を通してください。「地球には本当にたくさんの生き物がいるんだなあ」と実感するでしょう。それが生き物への興味をさらにかりたててくれるのではないのでしょうか?

今回の「やる気の法則。」をしてくれたのはこの先生!



まさしまひろたけ
牧島央武先生

「受験サプリ」で生物の講座を担当。東京大学大学院在学中から医療系予備校などで講師を務め、人気を博す。覚える知識量が多い「生物」だが、何を、なぜ、どこまで覚えなければならないかを明確に説明するよう心がけている。

牧島先生の講義も公開中!

受験サプリ

<https://jyukensapuri.jp/>

月額980円で人気講師の受験対策講義を見放題。スマホやPCでいつでもどこでも自分のペースで勉強できるネット予備校。全国140大学以上の過去問無料ダウンロードや合計1万語以上の暗記カードも提供。



法則3

覚える量が減らせない
ならば覚える楽しさを
呼び覚まして

誰もが一度は経験した
収集の喜びを再燃しよう

生物は覚える量が多いと言われます。この地球に生きているすべての生き物が対象なので、覚える量を減らすことはできません。

でも人は誰でもコレクションする喜びを本能的にもっていると思います。男子ならミニカーやメダル、女子なら服やアクセサリーなど、「集めるだけで楽しい」という経験を一度はした記憶はありませんか? 生物もそれと同じで、知識が増えれば増えるほど楽しくなり、生き物に対する理解も深まってきます。ぜひ人間が根源的にもっている「コレクションの喜び」をよびさまして、生物の勉強を楽しんでほしいですね。